

平成26年度

第9回「SYDボランティア奨励賞」受賞者名簿



後援:文部科学省

「広がれボランティアの輪」連絡会議

公益財団法人日本レクリエーション協会

公益社団法人日本キャンプ協会

受賞者一覧

(敬称略・順不同)

文部科学大臣賞

- いなべ市立大安^{だいあん}中学校 テクニカルボランティア部(三重県)

理事長特別賞

- 東洋大学 学生ボランティアセンター (東京都)

優秀賞

- 【小・中学生の部】 塩尻市立^{ならかわ}栖川中学校 雪かきボランティア (長野県)
- 【高校生の部】 岩手県立久慈工業高等学校 (岩手県)
- 【大学・一般の部】 該当なし

特別賞

- 青森県立名久井農業高等学校
TEAM FLORA PHOTONICS (青森県)
- 住吉っ子支え隊 (愛知県)

☆第9回SYDボランティア奨励賞には、39都道府県より【小・中学生の部】49件、[高校生の部]51件、[大学・一般の部]37件の計137件の応募があり、選考委員会において厳正なる選考の結果、上記受賞者が決定されました。

SYDは、1906年、東京府師範学校(現在の東京学芸大学)に学ぶ蓮沼門三を中心とする青年たちによって創立された社会教育団体です。“愛と汗の実践”を理念として「心の教育」一筋に歩み続けて109年、青少年の健全育成を中心とした様々な活動を行っており、今、みんなの幸せを願う「幸せの種まき運動」を全国的に展開しています。

文 部 科 学 大 臣 賞

だいあん

いなべ市立大安中学校 テクニカルボランティア部 (三重県)

テクニカルボランティア部は平成10年4月に部活動として創部された。その意味は、「テクニカル」＝工具や機械の使い方や技術を習得し、その技術を使つての間伐材製品作り・廃物工作・修理、「ボランティア」＝作品の寄贈・木工教室開催・森林保全活動・植樹・環境美化活動・作品の販売収益金による国際貢献、である。

地域に豊富にあるにもかかわらず、有効活用されていない間伐材や廃材を活かそうと始めた活動で、その目的は①「ボランティア活動」自分の特技を生かし、人と接することが苦手な生徒でもできる、②「物づくり」この過程において総合的で生きた学習ができる、③「環境教育」森林保全や廃物工作を実体験することで環境意識を高める、④「地域と学校をつなぐ」、⑤「国際貢献・国際理解教育」途上国に井戸建設資金を送る活動でこれまでカンボジア等4か国に合計6基の井戸建設をした。⑥「生徒の多様な居場所作り」運動や授業などで活躍場面が少ない生徒でも、ベンチを作り、感謝されることで生き生きと変わっている。

平成26年度の活動は、校区の4つの小学校に本立て40個、本校にベンチ6脚を寄贈、環境イベントでの木工指導を行った。また、木工製品を販売して得た収益金15万円で、発展途上国での井戸建設を予定しており、どこかの国の村に建設するのが良いか調べている。自分たちの頑張りによって井戸建設が可能になったことで、部員たちの士気は以前よりもさらに増してきている。

間伐材が捨てられるのは「もったいない！」から始まったこの活動も、環境教育、開かれた学校、物づくり、生きた学力、豊かな感性等々と広がり、結果として生徒指導にもつながっていった。生徒たちは周りの人から認められ自信が付き、感謝されることで生き生き活動できるようになっている。

27年度は、いなべ市から市内全中学校の卒業生への記念品として「手作りの箸」の製作を依頼されており、よりレベルの高い木工技術を習得して、良い製品づくりをすることを目指している。

今後も、テクニカルボランティア活動を通じて個々の人間性を高めていきたい。



〈環境イベントで小学生に木工指導〉



←
〈間伐材で作ったベンチ〉



〈チェーンソーで丸太を挽く〉



〈伐倒体験 この木でベンチを作ります〉



〈宮川村土砂災害の流木から作ったベンチ
宮川小学校に寄贈〉



〈カンボジア・バレイ村に井戸建設〉

理事長特別賞

東洋大学 学生ボランティアセンター

(東京都)

当団体は大学公認の団体で、平成16年に発生した新潟中越地震で被害を受けた山古志村での復興支援ボランティアに参加した学生を対象に募集がかけられ、平成18年5月に「学生ボランティアセンター」として発足した。学生が自ら企画・立案して活動を行うと共に、学部生に様々なボランティアを提供することを目的としている。今年度の活動回数は11月現在まで200回を超え、ボランティア活動以外にも活動報告会や講演会を行うなど、活発に活動している。

内容は、気仙沼、遠野、大船渡等での復興支援、三宅島、富士山等での環境支援、山古志、文京区等での地域活性化支援、防犯、福祉等々、多岐に渡る。この中でも、発足当初より継続している山古志村での活動は、被災直後から3年間にわたる復興支援で、夏休み、冬休みを利用し、毎回1か月近く村に滞在して行ってきた。この3年間でハード面の活動が減少し、学生にできることが少なくなったため、復興支援ボランティアを終了し、平成20年3月からは過疎化、高齢化の進む山古志の地域活性化ボランティアを開始、交流を継続するための定期的なボランティア等を実施している。

平成26年は①山古志の火祭り(3月)の準備・手伝い、②村内6集落で行われる夏祭りの準備・手伝い、③多くの学生に山古志を知ってもらうための、山古志ツーリズム「11キロウォーク」(9月)、④旧山古志村村長やサテライト職員を招いての講演会(9月)、⑤被災10年目の追悼式の準備・手伝い、参列等を行ってきた。

山古志との関わりは来年が10年目となる。震災直後はボランティアが多かったが、徐々に減っていき、今ではほとんどいなくなってしまう。そんな中、当団体は、山古志に行き、ボランティアをし、過疎化、高齢化の進む地域を活性化させている。「災害に遭ったことは、悪いことだけじゃない、あなたたちに会えた、良い事もある」と嬉しい言葉をいただいた。

20年経っても変わらず山古志に関わり続けていきたい、そして、まだ復興が進まない東日本大震災の復興支援ボランティアに関わっている地域へも、山古志をモデルにして今後関わっていこうと思う。



〈仮設住宅周辺の草取り〉



←〈東洋復興マップ作成〉



〈虫亀集落の盆踊り仮装大会参加、結果は準優勝でした〉



〈追悼式復興の灯りの準備〉



〈追悼式でふるまう山古志汁作り〉

〈梶金地区のお盆祭りで使う櫓作り〉 →



優 秀 賞

【小・中学生の部】 塩尻市立^{ならかわ}檜川中学校 雪かきボランティア

(長野県)

本校は中山道の真ん中、木曽路の北の入り口に位置する「檜川村」にあるが、平成17年に合併により塩尻市となった。地域の人口は2700余人で、65歳以上の高齢者が45%を占めており、全校生徒57名の小規模校である。標高が950mを超え、夏は涼しく過ごしやすいが冬は寒さも厳しい。この活動は、中学生の有志が、地域の主に高齢者だけで住んでいるお宅の雪かきをするというものである。

若い世代が同居していない高齢者宅の雪かきが困難であるという実態から、地元のNPO法人が住民に協力を依頼したが実働部隊にならず、平成20年に本校に依頼があった。本校は以前から、近くにある高齢者福祉施設との交流を行っていたので、生徒たちの豊かな心を育む教育をしたい、との思いから協力を受諾し、NPO法人とタイアップし、毎年有志生徒を募り、雪が降ると放課後や休日に雪かきを実施している。大人が割り振りをするが、どのタイミングで雪かきに出かけるかは生徒たちの判断に任せている。

もともと地域からの要請でスタートした活動であるが、単に「除雪をする」という活動で終わるのではなく、中学生と地域住民との心のつながりを生んでいると確信している。

他には、老人福祉施設と全校で年3回の交流会と、福祉委員のミニ交流会を2回行い、施設利用者とのつながりを持っている。これらの活動を通して育まれた気持ちが、雪かきボランティアにも活かされていると感じる。

檜川地区の将来を考えたとき、人口減少・高齢者増加が予想され、中学生による雪かきボランティアは、地域からも期待・歓迎され、生徒たちの自信や励みになっていくと思われる。「地域と学校が一体となって子どもを育む」ことの重要性が叫ばれている昨今、このボランティアは地域を知り、地域との結びつきを深める活動であり、今後も地域の中で支え、支えられながら地域を愛する生徒を育てていきたいと考えている。



〈駐車場の除雪〉



〈家の前から国道へ出る
細い石段を除雪〉



〈雪かきの後、家の方と
お話しをすることもあります〉



〈お年寄りと一緒に歌をうたう〉



〈文化祭へお年寄りを招待、
みんなでお見送り〉



〈お年寄りと
新聞紙ボール投げをしました〉

【高校生の部】 岩手県立久慈工業高等学校

(岩手県)

本校は、岩手三陸沿岸北部の野田村に県立久慈工業高等学校として昭和54年に開校、村にある唯一の工業高校として、ものづくりのおもしろさを発信するため、小学生ものづくり体験教室及び木工製品(バス停目印、イベント用ベンチと屋台等)の製作・寄付を行い、工業教育の地域理解に努めてきた。

平成23年3月に発生した東日本大震災津波では、野田村においても村内の町並み50%を失う被害を被った。震災当時、本校は避難場所として、遺体安置及び自衛隊基地並びに医療対応の拠点となり、生徒達は村内のガレキ処理に従事した。震災後は、失われた郷土の復興や命の大切さ、防災意識などを学び、将来の復興に携わる人材として成長してくれることを願い、ボランティア活動に取り組んでいる。

主な取り組みは①小学生ものづくり体験教室(今年で20年目を迎える)、②木工製品の製作と寄付(イベントや公共施設での活用)、③野田小学校での朝の読み聞かせ活動、④仮設住宅支援(「まめぶをじえじえっと作るのだ」「仮設でじえじえっとカビ退治」)、である。これらの活動は、いろいろな人々との「かかわり」を意識して取り組み、ものづくり体験教室では親子で参加してもらうなど、日頃、小学校では体験できないような木材加工や電子工作を体験し、最後は皆で流しそうめんを食べて交流を深めている。また、仮設住宅支援では、郷土料理を題材に、生徒たちが地域の食文化を学び、仮設に住む住民と交流を持つことで、地域復興に関わる気持ちを醸成させることを目的として取り組んでいる。

本校は、岩手県北沿岸唯一の工業高校として、復興に携わる人材の輩出も考えながら、村内小中学校及び仮設住宅に関わる支援を中心に様々な活動をしている。これからも生徒たちの活躍を通して村の活性化に役だって行きたい。「地域にかかわること」「集団で学ぶこと」は生徒を大きく成長させてくれる。今後も村の県立工業高校として、継続貢献していきたいと考えている。



〈小学生ものづくり体験〉



〈仮設住宅のカビ取り作業〉

〈陸中野田駅に
設置のテーブル〉 →



〈野田小学校での朝の読み聞かせ〉



〈仮設住宅でのまめぶ汁のふるまい〉

特 別 賞

■ 青森県立名久井農業高等学校

TEAM FLORA PHOTONICS (青森県)

チーム・フローラフォトニクスは結成6年目を迎えた青森県立名久井農業高校の植物研究グループで、草花を活用した環境ボランティアを積極的に行っている。主な活動は①市民の愛するサクラソウを地域と連携して救出する活動、②被災地の塩害花壇を再生する活動、③仮設住宅の室内空気を花で浄化する活動、④草花で水質浄化を図る活動、⑤環境保護意識を向上させる活動、である。

① 種差海岸のサクラソウは絶滅危惧種に指定される貴重な資源だが、この自生地が東日本大震災の津波にのまれた。震災1か月後に調査を行ったところ、土壌塩分がかなり高く、管轄する県に緊急保護の依頼をし、翌月保護指令が発令され、地元の自然保護団体や大学のアドバイスを受けながら調査と人口受粉と採種を行った。この活動は高校生が取り組む復興ボランティアとして世界に紹介された。また夏には発芽が成功、保護した花が開花した。さらに自生地調査を継続し、徐々に塩害が解消され、自生地が復活しつつあることを科学的に示し、高く評価されている。②津波被害を受けた土壌は通気性が悪くヘドロ状となり、植物は生育できなくなる。水で除塩を行っても通気性が悪く水が染みにくく非常に効率が悪い。震災後、研究に取り組み、マイクロバブルという微細気泡を含んだ水で除塩する新技術の開発に成功。八戸市の津波被害を受けた保育園の花壇を除塩後、子供たちと花植え活動も行った。また大きな被害を受けた岩手県山田町の除塩ボランティアにも取り組み、被災した高校生たちが除塩や花植えに協力し、学校同士の交流に発展している。③仮設住宅はシックハウス症候群になりやすく問題となっている。草花で空気汚染物質を吸収させる研究に取り組み、その成果を活かして岩手県山田町の仮設住宅に鉢花を設置する活動を行っている。④草花で空気を浄化するアイデアを応用し、花と微生物を活用して浄化する仕組みを考案した。⑤地域の子どもたちにもっと環境に興味を持ってもらいたいと毎年夏休みに生徒が講師となり、環境教室を開催。ここ数年は草花を活用し、浄化を実際に体験してもらい、子どもたちの環境意識の向上を図っている。

サクラソウの保全活動は地道に長い間取り組むものであるため、調査を継続しながら、市民や専門家にデータを提供し、また草花を活用した環境浄化のアイデアのノウハウを提供し、花で暮らしを豊かにする環境ボランティアを継続発展させていきたい。



↑ 〈地元や県と連携して取り組む
サクラソウ保護活動〉 ↓



〈小学校への環境教室〉



〈岩手県山田町での除塩活動〉



〈都市公園での水質浄化活動〉



〈被災地での花植え活動〉

■ 住吉っ子支援隊

(愛知県)

「住吉っ子支援隊」は、住吉小学校の教育活動全般を支えるボランティア団体で、はじめは読み聞かせのボランティアからスタートし、今年で20年目を迎え、現在は「英語」「コンピュータ」「図書」「読み聞かせ」「環境」「水泳」「理科」の7つのグループに分かれて活動している。活動を支えるメンバーは保護者(卒業生の保護者も含む)、地域の方、過去に勤務した職員など様々な方々である。

各グループの活動は「できる喜び・分かる喜び」を支える活動(授業に対する支援)と、「豊かな人間性の育成」を支える活動(主に環境面に対する支援)に分けて工夫している。①「英語ボランティア」:毎月1回、1,2年生の英語遊びなどを行う。低学年の英語に対する抵抗感がなくなり英語が楽しいと感じた状態で高学年の英語活動に入ることができる。②「コンピュータボランティア」:月2〜3回、コンピュータ操作の個別支援を授業に入って行い、苦手意識をなくすことに貢献。③「理科ボランティア」:毎週2日間、実験器具の準備や授業に入って子どもたちの実験・観察の個別支援を行い、担任が実験の準備に時間をとられることなく、教材研究を行うことができるため、より質の高い授業を受けることができる。④「水泳指導ボランティア」:6〜7月、水泳指導や安全監視を行い、水泳の苦手な子が泳げるようになることを支援、子供たちの多くは自信とやる気を持ち始めている。⑤「図書館ボランティア」:子どもたちが興味をもって図書館に足を運ぶことができるように毎週行い、おすすめ本の紹介や図書館整備と図書の修理を行い、子どもたちが気づかない本の修繕活動を、校長が発行する「住吉新聞」やHPで知らせ、感謝の気持ちが持てるようにしている。⑥「読み聞かせボランティア」:月1回程度、朝の読書タイムに各クラスを回り、読み聞かせや語りを行う。毎月の読み聞かせを子どもたちはとても楽しみにしている。⑦「環境ボランティア」:季節に応じて、校地内の樹木の剪定や除草作業を子どもたちと一緒にやる。このことにより感謝の気持ちを持つことができるようになってきている。

今後もこの活動を継続し、各グループ別々に行っている活動の情報を共有化しながら、子どもたちの個性に応じた支援の在り方を見つけると共に、学校生活の一場面に限られている活動を「スクールライフサポーター」という形のボランティアにしていきたいと考えている。



〈英語ボランティア〉



〈理科ボランティア〉



〈水泳指導ボランティア〉



〈環境ボランティア〉



〈読み聞かせボランティア〉

第9回 SYDボランティア奨励賞 実施要項

公益財団法人修養団では、昭和57年より平成13年まで「蓮沼門三社会教育奨励賞」により多くの優れた社会教育活動を実践した個人、グループ・団体を顕彰して参りました。この実績を踏まえ、平成18年に創立100周年を記念し、新たに「愛と汗の精神」を信条とする《幸せの種まき運動》の実践者を顕彰する「SYDボランティア奨励賞」を設立しました。

主 催：SYD（公益財団法人修養団）

後 援：文部科学省

「広がれボランティアの輪」連絡会議

公益財団法人日本レクリエーション協会

公益社団法人日本キャンプ協会

1. 趣 旨

今日、次代を担う青少年の健全育成はますます重要な課題となっている。そこで、ボランティア活動の分野で著しい活動を実践し、優れた業績をあげたグループや個人を顕彰することにより、青少年のボランティア活動を促進するとともに、活動の習慣化を図り、生きる力や豊かな心を育むなど青少年の健全育成に寄与する。

2. 対 象

原則として、ボランティア活動を実践している学校（生徒会、クラス、クラブ等）やPTA、子ども会等のグループ及び個人

3. 選考基準

次の項目に該当し、高い評価を得られたもの

- (1) ボランティア活動の分野で著しい活動を実践し、優れた業績をあげ、今後の活動に期待のできるもの
- (2) ボランティア活動に創意工夫や新しい方策を取り入れ、新機軸を拓き、今後の活動に期待のできるもの
- (3) ボランティア活動を受け入れ、施設の利用、改善、充実に努め、活動の活性化に寄与している施設またはそれを推進する活動
- (4) 青少年の健全育成を目的としたボランティア活動を実践し、将来が期待されるグループ及び個人

4. 選考方法

学識経験者等9名に選考委員を委嘱し、選考委員会にて決定する。

5. 表 彰

文部科学大臣賞 1点

クリスタルトロフィー(表彰状)、副賞(活動奨励金20万円またはSYD「青年ボランティア・アクション in フィリピン」へ2名招待)

理事長特別賞 1点 *今回に限り特別に設定

クリスタルトロフィー(表彰状)、副賞(活動奨励金10万円)

優 秀 賞 2点(小・中学生の部、高校生の部) *大学生・一般の部は今年度該当なし

クリスタルトロフィー(表彰状)、副賞(活動奨励金10万円)

特 別 賞 2点(高校生の部、一般・大学生の部)

クリスタルトロフィー(表彰状)、記念品



6. 贈 呈 式

期日:平成27年2月11日(水・祝)

会場:SYDホール

7. 募集方法

都道府県教育委員会、社会教育団体、青少年団体、学識経験者およびSYD組織、関係者に推薦を依頼するとともに、新聞、雑誌等のマスコミに広報を依頼する。

8. 応募方法

所定の様式に必要事項を記入し、活動報告書の上に添付して下記まで送付する。

9. 締め切り

平成26年12月1日

10. 申込み・問合せ先

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-25-2 SYDボランティア奨励賞 係

TEL:03-3405-5441 FAX:03-3405-5424

E-mail:info@syd.or.jp <http://www.syd.or.jp/>

選 考 委 員		(順不同・敬称略)
明石	要一(千葉大学名誉教授、千葉敬愛短期大学学長)	
鈴木	優子([学]立教女子学院理事・法人事務局長)	
長沼	豊(学習院大学教授)	
仲野	好重([-財]人間塾代表理事・塾長)	
堀井	榮夫(全日本中学校長会事務局長)	
山田	一功([社]ひかりの里理事長、[公]日本PTA全国協議会元副会長)	
御手洗	康([公財]修養団理事長)	
山崎	一紀([公財]修養団専務理事)	
青木	富造([公財]修養団理事・青年部長)	

過去受賞者一覧

(敬称略・順不同)

第1回(平成18年度)

- 文部科学大臣賞** 京都市立京都御池中学校(京都府)
- 優秀賞** 【小学生の部】鏡石町立第一小学校(福島県)
*【高校生の部】該当なし 【中学生の部】庄原市立東城中学校(広島県)
【大学・一般の部】合同ボランティアネットワーク(神奈川県)
- 特別賞** ◆国崎翠・吉居夏奈(北海道) ◆美幌町青少年育成協議会(北海道)
◆喜多方市山都第一小学校(福島県) ◆熱海市立小嵐中学校(静岡県)
◆加藤ひとみ(岐阜県) ◆伊江村立伊江中学校(沖縄県)

第2回(平成19年度)

- 文部科学大臣賞** 香川県立多度津水産高等学校(香川県)
- 優秀賞** 【中学生の部】木更津市立鎌足中学校(千葉県)
*【小学生、一般の部】該当なし 【高校生の部】学校法人高倉学園豊橋中央高等学校(愛知県)
- 特別賞** ◆天草市立城河原小学校(熊本県) ◆志布志市立通山小学校(鹿児島県)
◆東横学園中学・高等学校 中学2年(東京都) ◆多治見市立多治見中学校(岐阜県)
◆神奈川県立相原高等学校「相っこプロジェクト」(神奈川県)
◆熊本県立盲学校(熊本県) ◆立命館大学国際部国際協力学生実行委員会(京都府)
◆ブラジルを美しくする会(ブラジル)

第3回(平成20年度)

- 文部科学大臣賞** 学校法人篠ノ井学園 長野俊英高等学校 郷土研究班(長野県)
- 優秀賞** 【中学生の部】新宮町立新宮中学校相島分校 相島少年消防クラブ(福岡県)
*【小学生の部】該当なし 【中学生の部】2008年度屋久島町立小瀬田中学校2年生「笑顔」プロジェクト(鹿児島県)
【高校生の部】更級農業高等学校 農業クラブ 農業応援団「ねこの手隊」(長野県)
【大学・一般の部】八雲ジュニアサポーターズクラブ(島根県)
- 特別賞** ◆尾道市立三幸小学校(島根県) ◆鳴門市第一中学校 ボランティア部(徳島県)
◆富山県立小杉高等学校 生徒会(富山県) ◆富貴中おやじの会(愛知県)
◆高知朝倉里山を造る会(高知県)

第4回(平成21年度)

- 文部科学大臣賞** 豊田市立崇化館中学校 麦の会(愛知県)
- 優秀賞** 【小学生の部】日吉子どもサミット(滋賀県)
*【一般の部】該当なし 【中学生の部】名古屋市立はとり中学校(愛知県)
【高校生の部】中央学院高等学校 生物部(千葉県)
- 特別賞** ◆SYD北海道クラブ(北海道) ◆横浜市立岡村中学校(神奈川県)
◆長野県飯田風越高等学校国際教養科3年(長野県)
◆みんなでつくる学校 とれぶりんか(大阪府)
◆広島文化学園短期大学 食物栄養学科(広島県)

第5回(平成22年度)

- 文部科学大臣賞 高知大学 高知子ども守り隊 守るんジャー(高知県)
- 優 秀 賞 【小学生の部】御前崎市立御前崎小学校(静岡県)
【中学生の部】京都市立嵯峨中学校(京都府)
【高校生の部】江楠学園 北陵高等学校 生徒会(佐賀県)
【大学・一般の部】東海大学海洋学部環境サークル E.C.O(静岡県)
- 特 別 賞 ◆清水町立清水中学校 劇団8・9組(静岡県)
◆宮城県立塩釜高等学校地域活化班 塩釜ぼんぼん(宮城県)
◆愛知県立日進高等学校(愛知県)
◆京都精華大学 ホスピタルアートボランティアグループ(京都府)

第6回(平成23年度)

- 文部科学大臣賞 善通寺市立東中学校 ボランティア部(香川県)
- 優 秀 賞 【小学生の部】御蔵島村立御蔵島小中学校 黒潮会(東京都)
【中学生の部】港区立青山中学校 お話会(東京都)
【高校生の部】岡山県立久世高等学校 家庭クラブ(岡山県)
【大学・一般の部】西部点字パソコンサークル・ステップ(静岡県)
- 特 別 賞 ◆大和市立渋谷中学校(神奈川県)
◆新潟県立柏崎工業高等学校 防災エンジニアコース3年生、2年生(新潟県)
◆栃木県立栃木農業高等学校 村おこしプロジェクト班(栃木県)
◆出雲西高等学校 インターアクトクラブ(島根県) ◆播磨マリンクルー(兵庫県)

第7回(平成24年度)

- 文部科学大臣賞 埼玉県立桶川西高等学校 科学部(埼玉県)
- 優 秀 賞 【小・中学生の部】藤岡市立東中学校 生徒会(群馬県)
【高 校 生 の 部】盈進中学高等学校 ヒューマンライツ部(広島県)
【大学・一般の部】旭川医科大学 育児院学習サポート(北海道)
- 特 別 賞 ◆喜多方市立第三小学校(福島県) ◆^{ボランティアサークル}V・C・イヤリング(愛知県)
◆東京都立大島海洋国際高等学校 ボランティア部(東京都)
◆^{あじしま}網地島^{がっこう}ふるさと楽好(宮城県)

第8回(平成25年度)

- 文部科学大臣賞 鳥取大学 障害児教育研究会(鳥取県)
- 理事長特別賞 石巻市立牡鹿中学校「笑顔創造プロジェクト」(宮城県)
- 優 秀 賞 【小・中学生の部】宇都宮市立泉が丘中学校(栃木県)
*【大学・一般の部】該当なし
- 特 別 賞 【高 校 生 の 部】京都府立宮津高等学校 建築科(京都府)
◆北海道小樽工業高等学校ボランティア同好会(北海道)
◆福島県立平工業高等学校 生徒会(福島県)
◆身延山高等学校 手話コミュニケーション部(山梨県)



SYD『幸せの種まき運動』とは

－みんなでまこう！幸せの種－をスローガンとして、まわりの人々に、社会に、一粒でも多くの‘幸せの種’をまいていこうという運動です。さりげなく、よろこんで、出来るだけ‘幸せの種’をまいていきましょう。種をまくときは、あなたの“笑顔”という栄養分を添えて！

《三つの‘幸せの種’》

☆こんにちは！という‘ふれあいの種’
☆どうぞ！という‘思いやりの種’
☆ありがとう！という‘よろこびの種’